



最上川200キロを歩く 小学生探検リレー2019

山形新聞、山形放送の8大事業の1つ「最上川200キロを歩く 小学生探検リレー2019」は、県内の小学生が最上川沿いを歩きながら、母なる川・最上川の治水の歴史や利水の仕組みなど、生活における川の大切さを学ぶことを目的に実施されています。小学生探検リレーは、バトンとなるビッグフラッグを上流(米沢市)から最上川河口(酒田市)へ、リレー形式でつなぎながら歩いて行きます。

寒河江出張所は第5週～7週を担当し、堤防の役割や防災の取り組みなど、いろいろな体験(水質調査等々)を通じて河川管理を学んでもらいました。

第5週 6月8日(土)

新五百川橋～梁瀬橋



山辺町立山辺小学校のみなさん



フットパス(道)を歩く



寒河江ダム見学



寒河江ダムの噴水



寒河江ダム管査廊



水質調査の体験

寒河江ダムでは、洪水被害の軽減や水力発電を担うダムの役割について学びました。

朝から降り続いた雨も昼過ぎには止み、水たまりが出来た川沿いの道を元気に歩きました。



フットパスとは

「歩くことを楽しむための道」のことを言います。「最上川フットパス」は「最上川をまるごと体感できる、歩く楽しみのあふれる場所にしよう」という考えのもとに整備が進められている小道です。



天童市立成生小学校のみなさん



重要水防箇所表示()の説明



排水ポンプ車の説明



樋門操作体験



水難救助訓練見学

雨の中、寒河江市の「グリバーさがえ」にて排水ポンプ車や水難救助訓練の見学を通し、川の恐ろしさや維持管理の重要性を学びました。

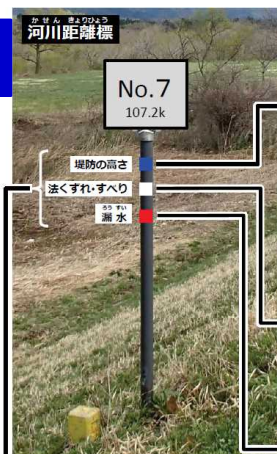
重要水防箇所表示とは

河川距離標(河川管理のため、河口または合流点から約200m間隔で設置している)に付けられたテープのことを言います。

テープはそれぞれ右図のような意味があります。



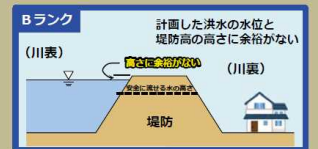
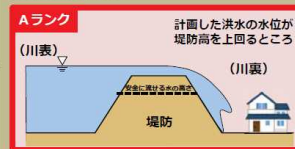
河川距離標



写真のテープが示すもの

- 上: 堤防の高さ - 青 → Bランク
- 中: 法くずれ・すべり - 白 → 問題なし
- 下: 漏水 - 赤 → Aランク

堤防の高さ



法くずれ・すべり



漏水



PICK UP!

河川距離標は、各市町村によってマークが異なります。川の近くを散策したときに探してみてください。



山形市 [花笠]



山辺町 [りんどう]



中山町 [ひまわり]



天童市 [将棋の駒]



寒河江市 [つつじ]



河北町 [紅花]



東根市 [さくらんぼ]



村山市 [バラ]



東根市立小田島小学校のみなさん



橋梁点検車に乗って点検作業体験



コンクリート打音検査体験



隼の瀬眺望公園を歩く



三難所(三)の説明

谷地橋では橋梁点検車に乗って橋の打音検査を体験、大旦川排水機場では排水機場や水門について学びました。また、隼の瀬を臨む隼の瀬眺望公園では、かつて舟運で三難所と言われた雄大さと川の流れを眺めながら、寒河江出張所管内の「最上川」に関する探検のフィナーレを迎えました。

三難所とは

村山市の最上川にあり、「碁点(ごてん)」、「三ヶ瀬(みかのせ)」、「隼の瀬(はやぶさのせ)」の3つの地点の総称で、最上義光が天正八年(1580年)この三難所を開削して最上川舟運を発展させました。

川は、私たちの生活に必要不可欠なものであり、川遊びや釣りなどを楽しむ場所でもあります。しかし、洪水はいつ起きるか分かりません。洪水から人々の暮らしを守るため、国土交通省では河川や堤防や水門等の施設に異状がないか維持管理しています。

洪水が起こってしまった場合、どのような行動を取ればいいのか、普段から考えて準備しておくことが洪水から身を守るための第一歩です。

